

東日本・関東大震災…もたらした被害は

弘前大学文京町キャンパスの弘前大学資料館で企画展「あの地震からX年～記録された地震から学ぶ」が開かれている。東日本大震災を含む過去の地震資料や地震計などが展示され、訪れた人が地震のもたらす被害の深刻さに思いを新たにしたい。入場無料。会期は8月8日まで。(山本恵子)

地震の記憶 忘れないで



弘前で 企画展 記録や資料でたどる

8月まで開かれる企画展「あの地震からX年～記録された地震から学ぶ」。「地震が何をもたらしたのかを忘れないでほしい」と話す片岡准教授

同大学院理工学研究所附属地震火山観測所地球環境学科が主催。東日本大震災から3年目となった今年は、関東大震災(1923年)から90年、十勝沖地震(1968年)から45年、日本海中部地震(1983年)から30年という節目を迎えたことで開催した。同観測所では、県から委

託を受けた観測点6点と大学独自の7点、計13点を管理している。

※この記事は、陸奥新報社提供です。
無断転載はできません。
[問い合わせ先]弘前大学理工学部
jm3505@cc.hirosaki-u.ac.jp

企画展では関東大震災の各1日分の地面の動きや地震計などの当時の貴重な資料が並ぶ。パソコンで日本海中部地震の各地の被害写真や東日本大震災発生直後と1年後、2年後

同大学院理工学研究所の片岡俊一准教授は「節目を契機に段々と薄れていく地震の記憶を呼び起こし地震発

生当時に、どんなことがあったのかを忘れてほしくない。ぜひ、企画展に足を運んで思い返してほしい」と話した。

開館時間は午前10時～午後4時。休館日は土、日曜日、祝日。問い合わせは同資料館(☎0172-393432)へ。